

2021年 11月 7日 《誕生祝福式・子ども祝福式》

主 日 礼 拝

①8:30am ②10:30 ③1:30pm ④7:00

司 会 ②石井 秀人兄

奏 楽
祈 禱 ②白川 達男兄

賛 美 聖歌651番 ～両手いっぱい愛～

主の祈り

聖書朗読 サムエル記上16章6～13節

特別賛美 ①②大和聖歌隊／③④WINGS

メッセージ 「あなたの心の中には誰がいる？」
石井 潤 牧師

献 金 讚美歌461番 ～栄光イエスにあれ～

祝 禱

お知らせ [司会者]

賛 美 ～海と空造られた主～ 「子ども祝福式」

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします！☆
《今週のお知らせ》

- ★本日も礼拝の恵みを心より感謝致します。今週も主の守り、祝福を祈ります！
- 本日は「子ども祝福式」です。次世代を担う子どもたちのために祈りましょう！
- ☆今週の祈り会は ○早天祈禱会：明朝6時。 ◎祈禱会：①木曜朝10時半～②夜7時半～（大和の祈禱会映像）。○準備祈禱会：土曜夜8時。
- ☆来週の日曜礼拝では聖餐式。午後は執事会です。〈司：石井兄／祈：松岡姉〉。
- ◎主任牧師の大川先生が明朝「腹部大動脈瘤」の手術を受けます。お祈り下さい！

☆一年に一回聖書を完読できる！ Bible Reading Plan [11/7- /14]								
Date	日	月	火	水	木	金	土	日
旧約	エレミヤ 47-48	49	50	51	52/哀歌 1	2-3	4-5	エゼキエル 1-3
新約	ヘブル 3	4	5	6	7	8	9	10:1-18
チェック	〇〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇〇

「あなたの心の中には誰がいる？」

～主は心を見られるお方～

「それゆえ、今あなたは、わたしのしもべダビデにこう言いなさい、『万軍の主はこう仰せられる。わたしはあなたを牧場から、羊に従っている所から取って、わたしの民イスラエルの君とし、あなたがどこへ行くにも、あなたと共におり、あなたのすべての敵をあなたの前から断ち去った。わたしはまた地上の大いなる者の名のような大いなる名をあなたに得させよう。』」サムエル記下7章8・9節

今日はイエス様のご先祖様である、ダビデ大王の最初の物語です。

エジプトを出て、荒野の旅をして、ようやく安住の地にたどり着いたイスラエルの民たちは、いつしか、諸外国のように自分たちを治める王様が欲しいと願うようになりました。それ自体は悪いことではないのですが、自分たちをエジプトでの奴隷生活から解放してくださった全知全能の神様ご自身が自分たちの王であることだけでは物足りなくなってしまって、目に見える英雄を求めて人間の王を求めようになってしまうのです。これが最初のイスラエルの民の信仰の墮落につながりました。しかし、寛大な神様はその民のわがままを受け止めて下さり、立派な王様を立ててくださいました。それはサウルでした。彼は強く、賢く、背も高く、一般男性たちよりも頭一つ抜きん出ていました。その選びは完璧に見えました。しかし、彼にも弱点がありました。それは、人の目を、神ご自身よりも恐れてしまったことでした。世間様の目を最も気にしてしまったのです。それはまさにその時代のイスラエルの民を象徴していたかのようでした。彼らは奴隷であった存在です。自分が虐げられていたことを意識し過ぎたのか、見た目や、立場や、人間的な尊敬を過度に意識してしまっていたのかもかもしれません。人は、抑圧や苦しみが強すぎるとかえって、その反対の方に意識を向けやすくなるのかもかもしれません。しかし、それは人間の弱さであって、そう簡単には抜け出せないことなのかもしれません。

わたし自身もそんな時がありました。虐げられていた訳ではありませんでしたが、イエス様の愛に出会うまでは、恐ろしい神様というイメージしか持っていませんでしたので、自分自身劣等感の塊で、自意識が強かったように思います。自分が大嫌いで、自信がなく、いつもおどおどしていました。しかし、イエス様のご愛に出会った時から、少しずつ、現実を受け入れることができるようになり、自分を赦し、愛せるように変えられ、他者をも受け入れられるようになっていきました。

ダビデはそんな存在でした。8番目の息子で、息子を全員集めてくださいというお願いに、父親がその数を間違えて、忘れていたような息子でした。親にさえ忘れられていたような存在でした。しかし、神様はそんなダビデをもしっかりと捜しておられました。ダビデは羊飼いでした。奴隷がするような仕事でした。しかし、後に彼は自分自身は羊であって、主が私の羊飼いでであると喜んで歌いました。それほどに価値がある仕事だと感じていたのでしょう。その心がそのまま彼の王としての心となっていくのです。

ダビデの素晴らしさは、誰よりも、何よりも、主ご自身を大好きな所でした。それは自分自身を王様として選んでくださったからではなく、その前から、羊飼いであった時から与えられていた彼の信仰でした。それは彼の信仰の原点でもあったのです。